

沖縄県連盟
組織拡充のための勉強会

ワクワク自然体験あそびの
進め方とその効果
－全国の事例から学ぶ－

組織拡充委員会 委員長 木村寿宏



加盟登録の概況について



令和3(2021)年度の加盟登録数

加盟登録総数 **82,960**人
(対前年度比 **96.50%**【-3,006人】)

スカウト加盟登録数 **47,576**人
(対前年度比 **97.22%**【-1,358人】)

指導者・団委員加盟登録数 **34,530**人
(対前年度比 **95.38%**【-1,672人】)

*スカウトクラブ会員数などを除外しているため、スカウト加盟登録数+指導者・団委員加盟登録者数は加盟員総数とならない。



令和3(2021)年度の特徴—スカウト数はやや持ち直す—

ビバースカウトの加盟登録数が、平成14(2002)年度以来、20年振りに**対前年度比100%**を超える。

・令和2(2020)年度7,152人→令和3(2021)年度7,185人 100.46%

加盟登録総数が前年度比100%を超えた県連盟は、過去5年間で最高の**9県連盟**に。

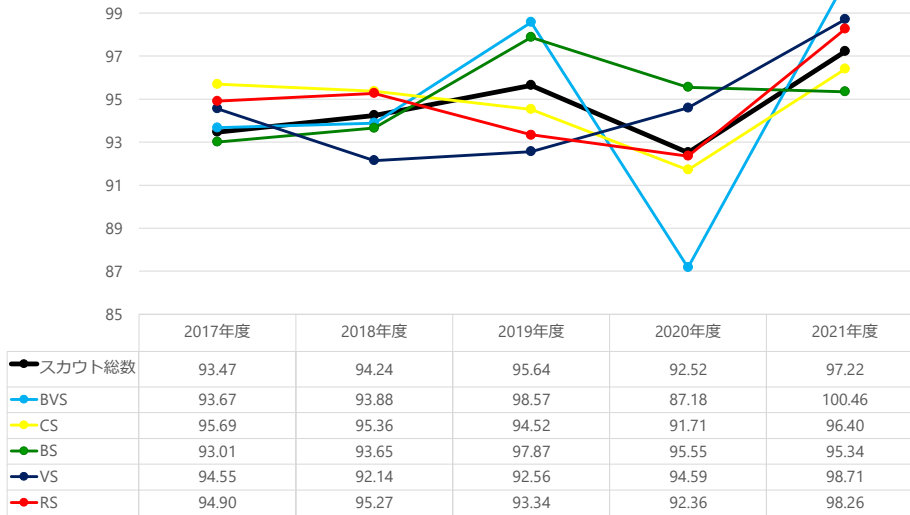
・宮城県、山形県、栃木県、山梨、三重、滋賀、高知県、長崎県、大分県
・高知は5年連続

スカウトの新規加盟登録数は**5部門全て**で前年度より**増加**するも、**指導者、団委員**は前年度より**減少**に。

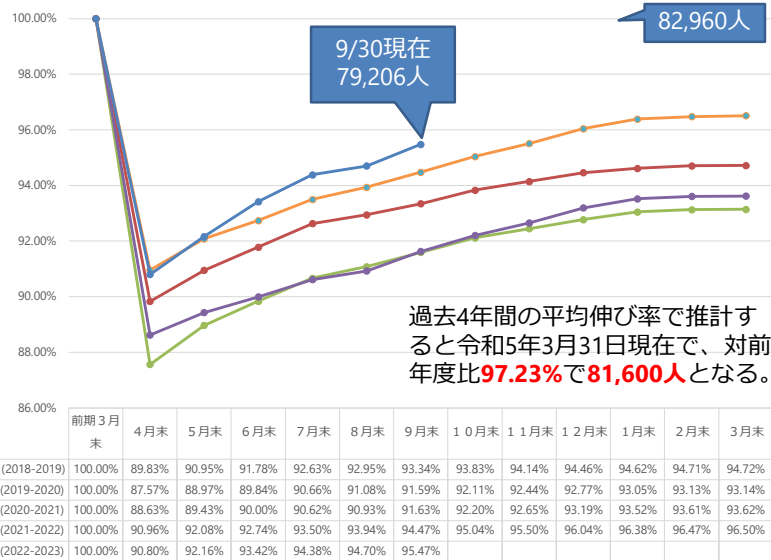
・BVS:+568 CS:+519 BS:+40 VS:+9 RS:+137
・指導者:-226 団委員:-47



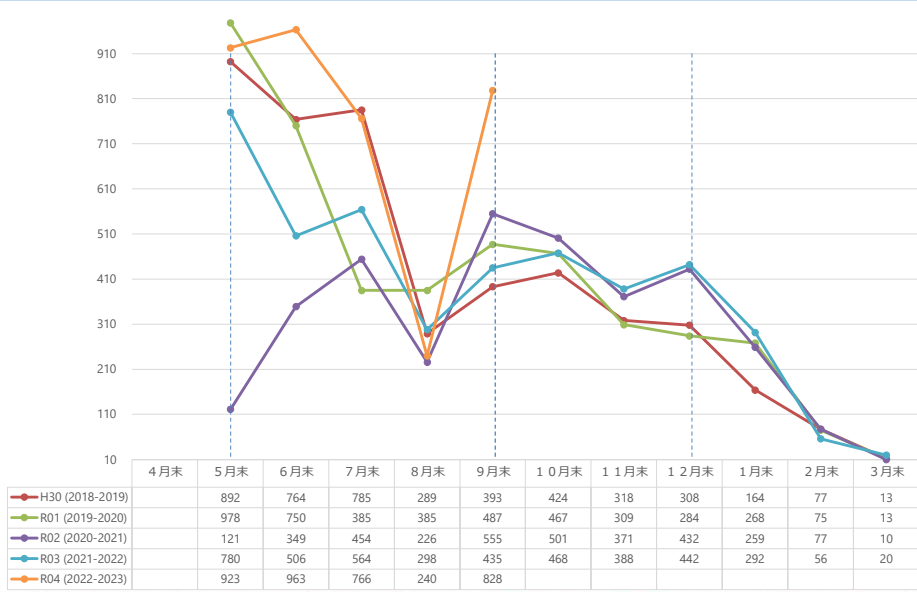
加盟登録数の経年変化 (スカウト総数と部門別スカウト数の対前年度比比較)



前年度末を100%とした直近5か年登録数推移



過去5年の月別追加登録者数



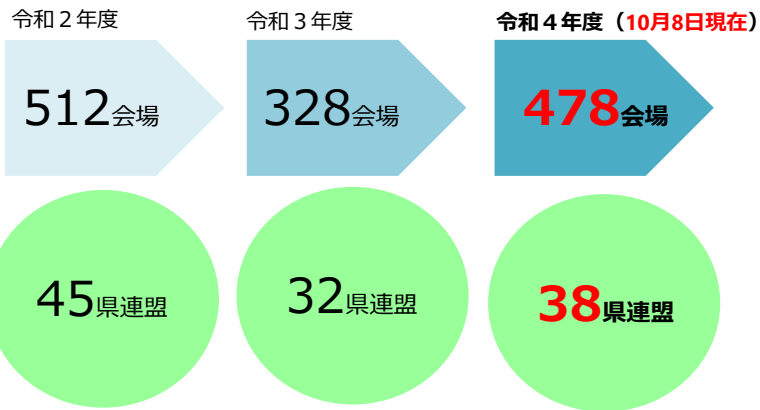
令和4年度

「ボーイスカウトとあそぼう！

ワクワク自然体験あそび」



実施会場数



参加した子どもの数 (スカウトを除く)



入隊に結び付いた数①（令和2年度）



全国 1,774ヶ団のうち

自然体験あそびに
参加した

377ヶ団

で

854人

が入隊

入隊した子どもの割合

7.26%

*854人は令和3年4月1日から5月14日までに新たに加盟登録のあったスカウトのうち
自然体験あそびに参加した子どもの数



入隊に結び付いた数②（令和2年度）



●入隊人数別回数

入隊人数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	10人以上
回数	171	86	56	28	17	8	5	2	1	1	2

令和3年4月1日～5月14日に新たに加盟登録のあったスカウトは8,636人
この人数に占める自然体験あそび参加者の割合は **9.88%**



その他の興味深い数字（令和2年度）



中止した会場を含めて
申込みのあった一般の子どもの数

17,959人



チラシ配布にご協力いただいた学校数
(のべ数)

6,236校



1会場あたりのチラシ配布数(平均)

2,700枚



チラシ配布から定員に達するまでの日数

2日



ワクワク自然体験あそびを効果的に開催するために

プログラムキーワード

探検、冒険	料理(野外、ポップコーン、やきいも)
(追跡、ナイト)ハイキング	防災
ポイントラリー	観察(せみ、星空、くわがた等)
宝、宝さがし等	火おこし
忍者・忍者修行	デイキャンプ
工作(かかし、ペットボトルロケット、 水鉄砲、割ばし鉄砲)	秘密基地
	昔あそび、芝スキー
川あそび、カヌー、ザリガニ取り	農業体験(いもほり、らっかせいほり)



ワクワク自然体験あそびを効果的に開催するために

なぜ、参加者がこれまでより集まるのか？

- ①都道府県・市区町村教育委員会の後援を得ることで、自然体験あそびへの**信頼度が高まる**とともにチラシの配付など**学校等の協力**を得やすくなった。

※後援には、**公益目的**が必要なため「募集」を目的とした場合は認められないことがほとんどです。



ワクワク自然体験あそびを効果的に開催するために

なぜ、参加者がこれまでより集まるのか？

- ②チラシから「**スカウト募集**」という言葉が無くなったことから、保護者が参加申込みをする際の**心理的ハードル**が低くなった。また、申込み方法が電話やメールから**フォーム入力**になり手軽になった。

※**スマートフォン**から**QRコード**を読み取って、申込みができるという手軽さはこれから必須になります。



ワクワク自然体験あそびを効果的に開催するために

ワクワク自然体験あそびでスカウト募集は出来ないのか？

都道府県・市区町村教育委員会の後援を得ていれば、直接的な募集は難しいですが、

- ①解散時に**次回の隊集会の案内**を渡したり、
- ②事業の終了後に**保護者向けのアンケート**を行い「今後も同様の活動のご案内を差し上げてよいですか」という項目を設ける

などの工夫をしている団は数多くあります。まずは、**ボーイスカウトの存在、自然体験あそびの魅力**を保護者、子どもに知ってもらうことが大切です。



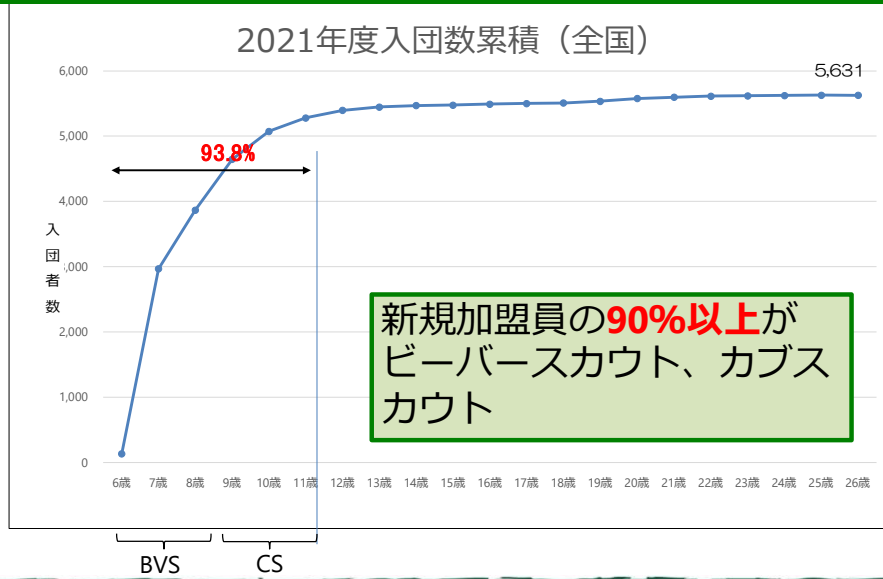
ワクワク自然体験あそびを効果的に開催するために

自然体験あそびの中の保護者への対応は？

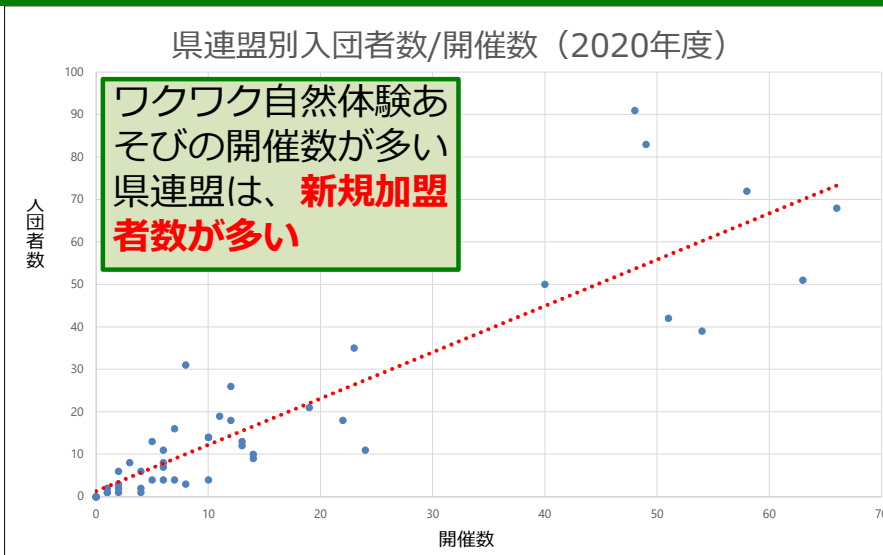
保護者だけのグループを作り**保護者用のプログラム**を提供したり、**子どもの様子**を見ながら、保護者にその自然体験活動や**ねらい**を説明する。



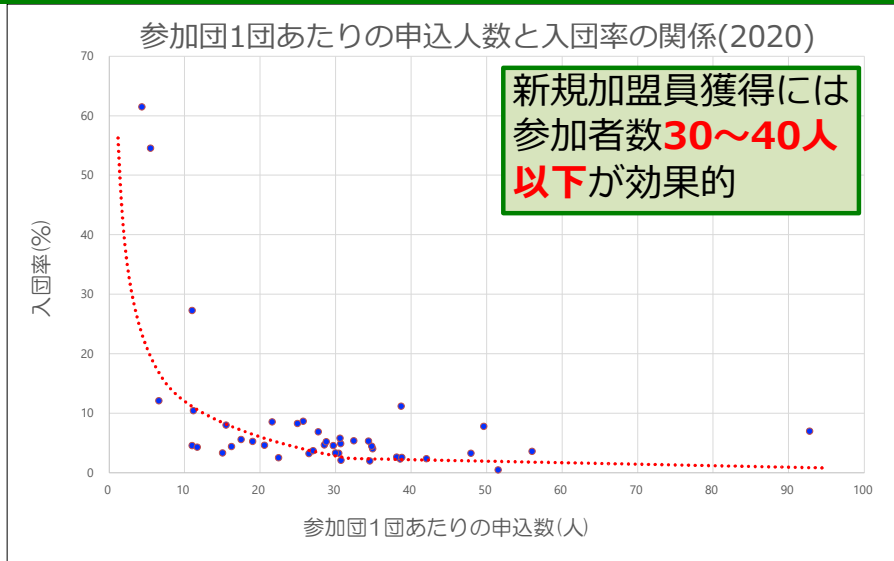
ワクワク自然体験あそびを効果的に開催するために



ワクワク自然体験あそびを効果的に開催するために



ワクワク自然体験あそびを効果的に開催するために



ワクワク自然体験あそびを効果的に開催するために

2つのデータからいえることは？

定員を**30~40人以下**とし、**複数回**開催することが最も効果的である。



毎回（いつも）の隊集会在がワクワク自然体験あそび

いつもの隊集会在がまさに「ワクワク自然体験あそび」です。特別なイベントをやるのではなく、「**いつもの隊集会在**」で「**地域の子とも**」と遊ぶという意識で実施しては如何でしょうか。

そのことで、指導者の負担も軽くなり、またやろうかという気持ちも生まれます。

こんな運営上の工夫をしています！



長野県連盟・茅野第1回

- ・あえて集合隊型をとらずに、親しみやすい雰囲気での開会式
- ・グループのリーダーは、ボーイ隊のスカウト

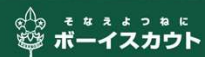


こんな運営上の工夫をしています！



岡山県連盟・西大寺第1回

- ・受付ではスカウトが参加者を迎える
- ・開会まで、スカウトと指導者がゲームでアイスブレイク



こんな運営上の工夫をしています！



愛媛県連盟・西条地区

- ・地域資源の有効活用
モンベルとの協働（ボルタリング施設の活用とブースの運営）

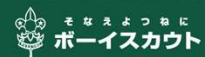


こんなプログラムを展開しています！



長野県連盟・茅野第1回

- ・ドームテントを張ってみよう
- ・キャンプに必要なものを選んでザックにパッキングして、背負ってみよう



こんなプログラムを展開しています！



鳥取県連盟・鳥取第1団・第7団

- ・ワクワクドキドキの暗夜行路
- ・ベンチャースカウトがフォローしながらの綱渡り



こんなプログラムを展開しています！



鳥取県連盟・米子第8団

- ・スタンプラリーとキャブファイヤー
(午後から開始し、夕食を取って夜のプログラム)



「SCOUTING」2021年3月号(№742)P12～P15

- ①参加者の事前アンケートから見てきたこと
- ②取り組み事例から考える体験活動のポイント～愛媛県連盟西条地区の取り組み
 - ・地域資源の有効活用①会場の立地と交通利便性
 - ・地域資源の有効活用②企業とのタイアップ
 - ・スカウトを中心にした運営
 - ・新型コロナウイルス感染症対策
- ③取り組み事例から考える体験活動のポイント～岡山連盟西大寺1団の取り組み
 - ・時間の有効活用と親しみやすいセレモニー
 - ・ビーバー、カブ年代に分かれて活動
 - ・保護者にも子どもと同じ体験活動を提供
 - ・入団に結びつけるために大切なアフターフォロー
- ④団支援・組織拡充委員会が考えるポイント
 - ・「スカウト運動普及のため」にするか、「新規加盟員獲得のため」にするか
 - ・「スカウト運動普及のため」に本事業を実施する場合の留意点
 - ・1つの学校等に対して個別に複数の団がチラシの配付を依頼しない。

参考に
してください！



「SCOUTING」2021年7月号(№744)P10～P11

- ①「自然体験あそびを」数字で振り返る(2020年度実施分について)
 - ・実施会場数
 - ・参加した子どもの数
 - ・入隊に結び付いた事例数
 - ・その他の興味深い数字
 - ・ボーイスカウトの認知度
 - ・保護者が我が子に身につけて欲しい力

「SCOUTING」2022年3月号(№748)P12～P13

- ①自然体験活動をスカウト募集に活かすポイント～大分県連盟の取り組み
 - ・加盟員減少地域で実施
 - ・メディアを巻き込んだ自然体験活動を
 - ・保護者にもプログラムを提供
 - ・2021年度の取り組み実績
 - ・学校を通じたチラシの配付



「自然体験あそびインフォメーション」第2号(令和3年11月30日発行)

- ①事業を実施する上でのポイント
 - ・スカウトを中心とした運営
 - ・受付後の時間の有効活用
 - ・親しみやすいセレモニー
 - ・保護者にもスカウトと同じ体験を
 - ・毎回の隊集いが自然体験あそび
 - ・大切なアフターフォロー
- ②令和3年11月30日現在の会場登録数など

「自然体験あそびインフォメーション」第3号(令和3年12月24日発行)

- ①岡山連盟西大寺第1団の事業「親子でハイキング」の視察レポート
 - ・部門別体験プログラム
 - ・ボーイ・ベンチャー・ローバースカウトの活躍
 - ・体験のお子さんはスカウトと一緒に
 - ・体験後のアフターフォローで入団につなげる
- ②これまでの参加申込み状況から
 - ・参加申込みの際によくある質問
 - ・定員オーバーが顕著な例
 - ・チラシ配付から応募まで
- ③令和3年12月24日現在の会場登録数など

参考に
してください！



「自然体験あそびインフォメーション」第4号(令和4年1月31日発行)

- ①大分県連盟で実施した「ワクワク自然体験あそび」の視察レポート
 - ・一過性でない地域・行政との連携強化
 - ・コロナ禍で有効な親子同伴のポイントラリー方式
 - ・スカウトの見える化の工夫
 - ・加盟員減少地域で県連盟挙げて実施
 - ・保護者向け体験プログラムの仕掛け
- ②令和4年1月31日現在の会場登録数など

「自然体験あそびインフォメーション」第6号(令和4年3月30日発行)

- ①プログラムに使われているキーワード
- ②実施会場数と入団者の相関関係
- ③申込者数と入団者の相関関係
- ④ワクワク自然体験あそびでスカウト募集はできない？

